

平成20年10月24日

各位

上場会社名	レシップ株式会社
代表者	代表取締役社長執行役員 杉本 眞
(コード番号)	7213)
問合せ先責任者	取締役常務執行役員 山口 芳典
(TEL)	058-323-7647)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年5月14日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	8,710	523	521	285	44.60
今回発表予想(B)	8,270	250	280	140	21.90
増減額(B-A)	△440	△273	△241	△145	——
増減率(%)	△5.1	△52.2	△46.3	△50.9	——
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年3月期第2四半期)	8,364	447	441	241	37.73

平成21年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	7,910	416	458	253	39.59
今回発表予想(B)	7,380	300	350	180	28.16
増減額(B-A)	△530	△116	△108	△73	——
増減率(%)	△6.7	△27.9	△23.6	△28.9	——
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年3月期第2四半期)	7,477	379	412	152	23.86

修正の理由

第2四半期累計期間業績予想修正の理由

(1)連結第2四半期累計期間業績予想

当第2四半期累計期間につきましては、輸送機器事業ではバス用ICカードシステムの納入が、一部、第3四半期以降にずれ込んだこと、産業機器事業では急速な電子マネーの普及により、前期において好調に推移していた物販共用読み取り端末が、需要の踊り場となり、当初の予想を下回る見通しとなったこと、さらに、S&D事業では、増加を見込んでいた米国でのネオン変圧器の販売が、サブプライムローンに端を発する景気減速の影響により、一転して減少する見込みとなったことに加え、日本国内での新規製品の拡販が、同様に景気減速の影響を受け出遅れていることなどにより、売上高は当初予想を下回る見通しとなりました。

また、ネオン変圧器や充電器の主要部材となる銅や鉄などの原材料価格が、依然として高止まりしたことに加え、連結子会社であるレシップ電子での自動車用電装品向け基板実装などの、新規立ち上げの拡大に伴う初期生産コストが増加したこと、及び売上高の構成比率において、相対的に原価率の高い製品が増加したことなどが原価上昇の要因となり、営業利益、経常利益、四半期純利益ともに当初予想を下回る見込みとなりました。

この結果、売上高は前回発表予想の8,710百万円に対し、8,270百万円と前回発表予想を5.1%下回る見込みであります。また、損益につきましては、営業利益250百万円(前回発表予想比△52.2%)、経常利益280百万円(同△46.3%)、四半期純利益140百万円(同△50.9%)、を計上する見込みであります。

なお、通期につきましては、産業機器事業の物販共用読み取り端末や、S&D事業の米国ネオン変圧器は軟調に推移すると予想されますが、主力の輸送機器事業におきましては、第3四半期以降にずれ込んだバス用ICカードシステムの納入が進むことに

加え、地方都市への納入拡大が見込まれるなど、バス市場向け製品が想定を大きく上回り、当第2四半期累計期間での減少を補う見通しであること、また、銅などの原材料価格の高騰や、ネオン変圧器の生産拠点があるタイ国のパーツの高騰に一服感が見られること、併せて全社的なコスト削減活動を強力に推進していくことで利益面の確保を図っていくこととしており、通期業績予想数値は連結・個別ともに平成20年5月14日公表数値のとおりとしております。

(2) 個別第2四半期累計期間業績予想

連結第2四半期累計期間業績予想の修正と同様の理由によるものであります。

(注) 上記の予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績につきましては、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上